

静岡大学
地域課題解決支援プロジェクト



ご 挨 拶

静岡大学は、『自由啓発・未来創成』のビジョンを掲げ、「質の高い教育と創造的な研究を推進し、社会と連携し、ともに歩む存在感のある大学」を目指して、教育・研究・社会連携の三つを大きな使命としています。なかでも社会連携に関しては、「地域社会とともに歩み、社会が直面する諸問題に真剣に取り組む、文化と科学の発信基地として、社会に貢献する」ことを使命としており、平成24年度に地域連携と産学連携に携わる組織を統合し、イノベーション社会連携推進機構を設置しました。

機構・地域連携生涯学習部門はその前身の時代から、公開講座や市民開放授業等の大学開放および地域連携事業を行ってきましたが、平成23年度から学生・教職員が地域社会と協働で取り組む地域活性化活動を支援する「地域連携応援プロジェクト」を実施し、これまで61件を採択して支援を行い、毎年度成果報告書も刊行しています。

平成25年度からは新たな展開として、これまで大学との接点がない地域から広く課題を公募する「地域課題解決支援プロジェクト」を立ち上げました。どれだけの反響があるか不安な部分もありましたが、周知期間がないなか計28件の応募をいただきました。なじみがない、敷居が高いという声も聞かれるなか地域から大学に大きな期待が寄せられていることを実感し、これまで以上に地域連携・社会貢献に注力し、組織的に取り組む必要があることを痛感しています。

準備不足のため辞退された1件を除いた27件の全地域課題については、地域に赴きヒアリングを行って作成した地域課題データベースを公開し、関心を持った教職員・学生とのマッチングをはかりながら、年度をまたいで課題に取り組んでおり、進捗状況については機構のWebサイトに逐次掲載しています。

教育・研究・社会連携が大学の3つの柱であると言われますが、教育・研究の成果の一部を社会連携に充てるという姿勢では大学として生き残ることはできないのではないかと考えます。大学の構成員が恒常的に社会連携・地域貢献活動に携わることで、教育・研究のあり方が深化・拡充する、それがまた次なる社会連携につながるといった、教育・研究・社会連携のサイクルをつくることが本学の目指す方向性であると信じています。

本パンフレットにもありますように、具体的な地域課題を中心におきながら、教員だけを導き手とするのではなく、学生だけで学ぶのではなく、様々な立場の地域の方々と交流・協働しながら、実践的に学ぶ合うことが、大学にとって不可欠であると感じています。これまでの地域課題に引き続き取り組みながら、平成28年度には第2期公募として、継続的に学生を受け入れていただける地域課題の募集を予定しています。

地域課題解決支援プロジェクトは、大学が支援者になろうとする取り組みですが、地域からの様々な働きかけ、協力、支援がなければ成立しない試みです。

これまで同様、地域の皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

静岡大学理事（研究・社会産学連携担当）／副学長
イノベーション社会連携推進機構長

木村 雅和

地域課題解決支援プロジェクトの概要

地域課題解決支援プロジェクトとは

地域社会は多種多様な問題を抱えており、既存の枠組みでは対応しにくい課題が山積しています。一方、大学においては継続的に教育・研究・社会連携活動行われ、地域課題の解決に寄与しうる資源がその成果として蓄積されていますが、地域社会からそれが見えやすい状況には必ずしもなっていません。

「地域課題解決支援プロジェクト」は、地域社会が抱える課題を大学が再発見し、大学のもつ様々な資源を活かしながら地域と大学が連携し、対応策をともに考え、協働することによって解決することを支援する事業です。

公募・発掘した様々な地域課題を介して、大学と地域社会が連携の担い手として互いを再認識し、一から連携を立ち上げていくことを支援する取り組みであり、普段大学とのコンタクトがない地域ともつながることを目指しています。

平成25年度後半に公募を行い、県内東中西部から28課題の応募があり、準備不足のため今回は辞退された1件を除いた27件を地域課題リストに登録・広報し、うち3地域の課題群をモデル事業として採択、重点的に対応することとしました。

※地域課題一覧と各プロジェクトに関する進捗状況は下記サイトに掲載しています。

http://www.lc.shizuoka.ac.jp/areastudies_index.php

※地域課題解決支援プロジェクト成果報告書第1号は下記サイトに掲載しています。

http://www.lc.shizuoka.ac.jp/publication_list.html



静岡新聞 平成26年3月3日



静岡新聞 平成27年2月12日

地域課題解決支援プロジェクト応募課題リスト

no.	応募団体／関連団体	現在困っていること（地域課題）について	大学に期待する支援について
1	夢の里みつかわ あぐりい (袋井市)	三川地区の課題は、『三川が誇る3つの財産（農業・環境・人）をより合わせ、欲しい、行きたい、住みたい地区を創る』こと。人との絆を大切に、心通い温もりのあるまちづくりに取り組みたい。	①出会いの場の提供をし、結婚する人を増やす方策 ②袋井市地域の活性化方策 ③地産地消の推進のための方策
2	御前崎市役所	御前崎市では過去の人口増加を背景に原子力関連交付金等により公共施設の整備を進めたが、少子高齢化や人口減少により公共施設のあり方が変化した。公共施設マネジメントへの取組が必要である。	・今後の当市の財政状況分析 ・公共施設マネジメントの可能性及び取組手法 ・公共施設の費用便益分析
3	ユークロニア株式会社 (静岡市)	県内の小中学校では睡眠不足からくる問題が顕在化している。「睡眠授業」の依頼が増えているが、研修にはマンパワーが不足。地域の課題として睡眠を整えることができる仕組み作りが必要である。	・睡眠教育の標準化や効果検証 ・教育者の育成 ・静岡独自の睡眠問題の調査により地域にあった生活スタイルを探る
4	NPO 複合力 (静岡市清水区)	両河内地域の高齢化は進み、休耕農地が増えている。森林公園「やすらぎの森」は、老朽化にもかかわらず年間30万人が訪れる。脱・限界集落の手がかりを得て、地域を活性化する手立てを考えたい。	・農作物の品質を高め商品化する栽培知識技術。 竹林等を伐採し循環型資源とする知識技術。 ・グリーンツーリズムを活性化するための知識技術。 ・大学生など若いマンパワーが恒常的に来園する方策。
5	静岡市北部生涯学習センター美和分館 指定管理者（公財）静岡市文化振興財団	潜在的な利用者のニーズの把握が十分ではない。広く地域住民の生涯学習に対するニーズ把握のため調査を企画した。それにより、一層充実した学びの機会を地域に提供し、地域コミュニティ活動の推進につなげたい。	地域住民に対するアンケート調査への助言及び分析
6	静岡市立登呂博物館	リニューアルオープン後、年々来館者数が減少している。イメージ・キャラクターを使った誘客活動を行ってきたが、マンネリ状態になっている。多様化する来館者に対応するため、多言語仕様の資料が必要となる。	・イメージキャラクターを活用した教育普及事業の開催への支援。 ・登呂遺跡および登呂博物館の概要を紹介した多言語対応パンフレットの作成とHPの構築。
7	NPO 法人 富士川っ子の会 (富士市)	子育て支援中心の活動を、今後は生涯学習の観点から事業を広めていく必要がある。当NPO、行政、企業が協働できるようなテーマで解決を図る活動を展開する。活動拠点の確保、会員の若返り施策と後継者の育成が課題。	・当団体、行政、企業との協働により、団体の若返りと活動の幅を広げ、定款に示す事業展開の具体化 ・活動拠点の確保
8	油山川のマコモを根絶する会 (袋井市)	油山側では700mにわたってマコモが繁殖し、流下能力を著しく低下させ、景観上からも問題となっている。河川管理者が年に1回刈り取りを行っているが、マコモは繁殖力が旺盛で、2カ月もすると元の状態に戻ってしまう。	活動の中で、マコモは根が残っていると再生するが完全に取り出せば再生しないこと、天地返しにより根が腐り取り出せることが分かった。マコモの生態研究、根絶手法の検証で研究支援を期待する。
9	袋井市三川自治会連合会	高齢者が地域社会に飛び出せない、“生き甲斐や社会貢献”の機会が確保できない	①高齢者の意識調査、②高齢者のライフスタイルの解析、③高齢者の社会進出の仕掛けづくり、④全国での成功（失敗）事例の紹介、⑤街づくりワークショップ等への共同参加
10	南伊豆新生機構 (南伊豆町)	①未利用の土地の有効利用がされていない。②地場産業が稼働していないため人口が流出している。③人材が育っていないため外部の人材との交流がうまくできていない。④行政の協力体制がない。	①知的アドバイスの支援 ②人材の支援 ③資金の支援
11	焼津市役所 総務部 政策企画課	焼津市では、高度成長期の急激な人口増を背景に公共施設の整備を進めてきたが、老朽化が進んでいる。効果的に公共施設をマネジメントしていく取組が求められている。	地域の人口推移の検証や施設の利用状況を詳細に分析し、老朽化を迎えている集会施設の複合化案について提案頂き、市民への説明、話し合いを経て、建設計画を実現可能レベルに調整
12	浮橋地域のスローフードを考える会 (伊豆の国市)	中山間地の活性化	・大学生の視点から、中山間地を幅広い世代にアピールするための意見がほしい。 ・ワークショップを取り入れながら、地元の自然を最大限に利用し農業・観光へと循環させるプランを検討してほしい。
13	株式会社 アイ・クリエイティブ／ ジョブトレーニング事業 (静岡市)	[1] ニート（若年無業者）増加問題 [2] 静岡県耕作放棄地増加問題	◎大学に望む事…ニート・ひきこもりや発達障害などの教育心理の知恵を貸してほしい。 ◎ジョブトレーニングが提供するもの…ゼミ等の一環として参加してもらうことで実態現場＋学びの場を提供する。

no.	応募団体／関連団体	現在困っていること（地域課題）について	大学に期待する支援について
14	松崎町	町内にはなまこ壁を配した歴史的建造物が残されている。所有者の高齢化、維持のコスト高等で取り壊すことが多い。町の財産ではあるが個人の所有物である歴史的建造物をいかに後世に残していくべきか悩んでいる。	最小の費用で最大の効果のある維持や修繕方法を一緒に考え、古民家を利用したまちづくり手法と収益事業のアドバイスや、学生による町おこしや収益事業の模索など。
15	松崎町	町民の森「牛原山」を利活用したいが、中途半端に行政主導で整備してきたため町民の利用が少ない。眺望はよく晴れていれば展望台からは富士山も望める素晴らしい山だが、利用されない。	人が集まる仕掛けや町民が自ら維持や修繕に携われる方法を一緒に考え、里山の素晴らしさを内外に発信し、愛され利用される森にしたい。アドバイスや学生の知力、体力、気力を町おこしに活かしたい。
16	松崎町	松崎町では、ソフト、ハード両面からの防災施策が急務である。津波対策として水門の建設や防潮堤の嵩上げなど必要な事業だが、景観などの問題で全体の理解が得られない。	防災機能だけの無機質な防潮堤や水門を、どうしたら景観に配慮したデザインや機能を持たせることができるか、一緒に考えてほしい。
17	松崎町	過疎化・少子高齢化により当町も御多分に漏れず耕作放棄地が急増してきている。このままでは町内の農地が荒地だらけになり、今年度加盟を認められた「日本で最も美しい村」連合に恥ずかしい姿をさらしかねない。	耕作放棄地の解消だけでなく、永続的に利活用し続けることができる仕掛けづくりを期待する。当町での有効な作物の選別や耕作方法の指導、学生による農業体験事業化などでの協力がほしい。
18	松崎町商工会	松崎町の中心市街地である商店街が過疎化・少子高齢化によりどんどん寂れている。このままではゴースタウン化してしまう。現在でも転居し、空き地になるところが後を絶たない。空き店舗も多く、シャッター商店街になりつつある。	商店街の魅力発掘と、買い物弱者の高齢者への商店街への買い物支援法。商店街のアート誘致、コミュニティ公園化について助言がほしい。全体的なデザインについても関わってほしい。
19	浜松都市環境フォーラム（浜松市）	浜松市はマイカーに依存した都市となっている。深刻な渋滞問題が予測され抜本的な交通対策が急務である。工業都市として発展してきた浜松が、今後も持続的に発展していくには観光・文化都市としてのまちづくりが必要となる。	持続可能な都市づくりは、行政・民間が扱いにくい空白の分野で、大学の持つ知的・人的資源を活用して研究する価値が高く、実現を前提に「特区」の認定を受けられるような研究を期待したい。
20	伊豆半島ジオパーク推進協議会	伊豆半島ジオパークの進捗を判断する評価指標や調査方法の不足。 ・貴重な資源の保全、教育、防災、地域振興等、様々な分野での取組があるが、活動の検証とフィードバックが難しい。	伊豆半島ジオパークの活動の進捗状況を把握し、フィードバックするのにどのような調査や指標が適当なのか、大学の知的、人的資源を活かした、モデル調査の実施、各種資料の収集と分析等。
21	三保の松原 フューチャーセンター（静岡市）	①三保の松原の保全。②三保の魅力を知り、次世代へ伝えていく仕組みづくり。③三保住民の安全な生活環境の確保。三保で活動している団体は数多く存在するが、横の連携が取れておらず、協働できるきっかけがほしい。	①耕作放棄地を活用し、三保自生の松から植樹用の松を育て商品化するための支援。 ②子供や住民が気軽に参加できるイベントを開催し、地域の関わりを強化するための支援。
22	焼津市市民活動交流センター運営協議会	焼津市内には市民団体が数多くあるが、団体相互の交流が少なく、協働もできていない。焼津市の抱える様々な問題に行政、企業、市民が協働して解決策を模索するようになれば、もっと良いまちになると思われる。	市民活動の実態を知り、その活動を直接・間接に支援できる人材育成を依頼したい。センターへの支援として、情報発信能力の強化、交流会の企画立案・市民が参加しやすい方法論の検討などがある。
23	静岡市葵生涯学習センター 指定管理者（公財） 静岡市文化振興財団	「生涯学習」の学習格差の解消 「生涯学習」に興味・関心がない地域住民に「生涯学習」に取り組んでいただけるよう支援していく。	・地域の現状調査の一連の事業の中で、調査方法や課題解消への取組方法、評価方法へのアドバイスがほしい。 ・大学生等の若年層の認知を高める手法を開発、事業実施をする。
24	伊豆を愛する会（南伊豆町）	ジオサイト候補地の里山を所有しているが、安全面の不安を理由に、南伊豆町観光協会と行政は消極的である。これまで500名以上の方が問題なく見学しており、地域の不安を取り除くために力を貸してほしい。	①岩石構造専門家の派遣をお願いしたい。 ②石切り場には、昔の人が文字を掘った跡が何箇所もあり、解明されていないことも多く、歴史文化の専門家の派遣をお願いしたい。
25	静岡県／松崎町	①棚田保全・活用―石部地区の棚田を保全するとともに活用を検討。 ②特産品を活用して加工品づくりと販路拡大までを検討。 ③伝統芸能保存。④大学と地域のネットワーク化。	①既存のつながりでは生み出されていない部分の開拓に期待。 ②新しい視点で工夫を加えた加工品を開発してほしい。 ③継続的課題解決活動に取り組み、地元との連携を築いてほしい。
26	静岡県／東伊豆町	①エコタウンとしての売り出しに向けたガイドシステムの研究。 ②地域づくりインターンとしての学生の参加。 ③オリーブの里づくりへの大学の参画。	①エコ資源の活用方法の提案。②従来より長期的な関わりが可能な大学生の派遣と長期的な関わりを求める。③オリーブの栽培の可能性について、植樹の段階からの研究を希望。
27	静岡県／南伊豆町	①竹の子振興方策の検討―産地化に取り組んでいるが、竹林の利活用についての研究が必要。 ②過疎地域における公共交通サービスの在り方の検討が課題。	①従来と異なる新たな竹の子の活用策の提案に期待。 ②集落が分散し、主要道路周辺のみを運行するのではカバーしきれない公共交通網維持の問題の検討に期待。

各地域課題に関する支援事例を紹介します。

松崎町／歴史的建造物の保全・商店街の魅力発掘とにぎわい創出／松崎町で地域課題公開シンポジウムを開催

平成27年2月11日(水)松崎町生涯学習センターにて公開シンポジウムを開催しました。当日は約60名の参加がありました。シンポジウムに先立ち、大学からの参加者に対し松崎町職員の案内による街歩きワークショップも催され、町にふれることができました。



事例報告では、静大フューチャーセンターおよび人文社会科学部・川瀬ゼミの学生らが、静岡市の商店街の活性化に取り組んだ実績や御前崎市と浜岡原発との関わりを調査したフィールドワークの成果を紹介しました。



学生や町職員によるパネルディスカッションも行い、地域の自然や食材、町並みなどの素材の取り上げながら、今後の取り組み方針を話し合いました。まちづくりに取り組んでいる住民、地元高校の生徒・教員らからも質問・意見が出るなど、活発に交流を行いました。



松崎町／歴史的建造物の保全・商店街の魅力発掘とにぎわい創出／「静大フューチャーセンターin松崎町」の開催

平成27年3月29日(日)と30日(月)賀茂郡松崎町生涯学習センターにおいて「静大フューチャーセンターin松崎町」を開催しました。これは2月に松崎町で行われた公開シンポジウムでの交流をきっかけに地域住民の方と静大フューチャーセンターで活動する学生たちが未来志向の対話を通じてこれからの松崎町と一緒に考える機会として企画したものです。

29日はコミュニティで活動する地元住民14名に参加してもらい、「松崎町の自慢」をまとめるワークから「未来の松崎町」について意見を交わしました。同じような問題意識や意見を持ちながらもコミュニティを超えたメンバーが地元の未来について語る機会はこれまでほとんどなかったようですが、当日は学生たちが対話をリードしていくことでそれぞれの思いや考えの理解が進み、これからの方向を共有できる時間を過ごすことができました。

翌日30日には松崎町の中高生15名に参加してもらい、大学生と一緒に松崎町の自慢をまとめるとともに「これから10年間の自分と松崎町」について思いや考えを言葉にしました。静岡大学の学生にとっては、中高生のほとんどが松崎町への誇りと愛着から、将来も地元に残りたいと考えていることがよく理解できたとともに、地元の中高生にとってはこの数年の進路選びや自分ができること、今やるべきことの整理につながる機会になったようです。

報告者 学生支援センター
准教授 宇賀田栄次
(静大フューチャーセンター 運営)



松崎町役場／防災と観光の融合／「津波防災まちづくりシンポジウム」を開催

松崎町での地域課題シンポジウムをきっかけに、「津波防災と観光の融合」という課題に対応し、静岡県、松崎町、国土技術総合研究所、静岡大学(防災総合センター・原田賢治准教授)が連携をして、津波防災と地域振興について共同研究を進めています。



その一環として静岡県、松崎町共催による「津波防災まちづくりシンポジウム」が、平成27年9月5日(土)、松崎町環境改善センターにて開催され、約300名の参加がありました。

当日は、静岡大学防災総合センター・原田賢治准教授が基調講演を行い、人と防災未来センター(神戸市)の照本清峰研究員による報告があり、続いて原田准教授のコーディネートのもと、地元ジオガイドや松崎高校生生徒らが登壇したパネルディスカッションがあり、活発な意見交換が行われました。

松崎町役場／防災と観光の融合／「津波防災ワークショップ」に参加

静岡県、松崎町共催による「松崎町津波対策検討会・地区協議会」が、平成27年12月20日(土)、松崎町環境改善センター・会議室にて開催され、静岡大学防災総合センター・原田賢治准教授と4名の理学部学生が参加しました。学生達は、松崎町地区協議会の会員に混じり、活発な意見交換を行い、提案のプレゼンテーションも行いました。



伊豆半島ジオパーク推進協議会／伊豆半島ジオパーク進捗管理のための評価指標および調査方法の確立／フォーラム「伊豆半島における観光振興と住民参加による博物館活動」とワークショップ「下田まちあるき」の開催

平成27年1月31日(土)のフォーラムでは、観光産業の競争戦略や観光による地域振興をテーマに研究している狩野美知子准教授と、フランスのエコミュージアムを研究してきた石川宏之准教授が、観光振興と博物館のネットワークについて講演をし、意見交換を行いました。

2月1日(日)のワークショップでは、フィールドミュージアムの視点を踏まえて伊豆半島ジオパークガイドや研究者と一緒に下田市街地を歩き、文化・自然・地質遺産を結び付けたモデルコースを作りました。



静岡市立登呂博物館／国内外に向けての情報発信／シズオカ×カンヌウィークに参加

平成27年は、シズオカ×カンヌウィークの開催地に登呂遺跡が加わりました。このイベントに合わせて、登呂博物館のマスコットキャラクター「トロペー」のフランス風コスプレ出演が決定し、STV(静岡大学登呂博物館ボランティア)ではコスプレのデザイン等について、アイデアの提供とその製作に取り組みしました。当日は、フランス国旗をあしらったベレー帽とフランス国旗のマントに身を包んだトロペーに変身し、多くの来場者の方々と交流することができました。

また、10月に開催される登呂まつりにも参加します。初めての参加となった昨年は、スタンプラリーとクイズ大会を実施しました。双方とも大盛況だった一方で、課題も多く残りました。人数の配置や時間配分等の反省点を生かしつつ、今年は新たな企画に挑戦しています。

このほかにも、来館者や学生に向けて発信する広報活動を企画中です。今後も博物館教育普及を広げるため、積極的に活動していきたいと思います。

【文責 石井伶奈】



夢の里みつかわ あぐりい／住みたい地区を創る／袋井市三川自治会連合会／高齢者の生き甲斐づくり／袋井市三川公民館でのワークショップを実施

平成27年2月19日、袋井市にて地域課題解決支援プロジェクトに関するワークショップを行いました。

地域課題を提案いただいた「三川自治会連合会」「夢の里みつかわ あぐりい」の方々と、静岡文化芸術大学の学生さん3名とともに訪ね、袋井市および三川公民館の方々にも同席いただいて資料やデータをもとに三川地区の課題と可能性をうかがい、意見交換を行いました。

袋井市三川自治会連合会／高齢者の生き甲斐づくり／袋井市三川公民館でのワークショップを実施

平成28年1月6日、昨年に引き続き、袋井市にて地域課題解決支援プロジェクトに関するワークショップを行いました。

地域課題を提案いただいた三川自治会連合会・寺田会長ならびに三川公民館、袋井市役所の方々と、静岡文化芸術大学の学生さん3名とともに訪ね、三川自治会連合会および三川公民館の取り組みを紹介いただきながら、三川地区の課題と可能性をうかがい、意見交換をしました。



浜松都市環境フォーラム／次世代交通システムの実現と観光・文化都市へのまちづくり／「地方創生市民シンポジウム」の開催

浜松都市環境フォーラム主催の地方創生市民シンポジウム「浜松型次世代交通システムと観光産業振興による地方創生!」が、平成27年9月12日(土)、浜松市中区のUホール(浜松市勤労会館)にて開催され、約350名の参加がありました。

当日は、石破茂地方創生担当大臣の講演、2016年度からLRTを導入予定の宇都宮市による経緯報告や研究報告があり、続いて浜松都市環境フォーラムの内田宏康代表、地域課題解決支援プロジェクトの関係者も参加したパネルディスカッションが行われ、活発な意見交換が行われました。

次世代交通システムの実現と観光・文化都市へのまちづくり／浜松都市環境フォーラム／「地方創生市民シンポジウム(第2回)」を開催

浜松都市環境フォーラム主催の地方創生市民シンポジウム「みんなで考える浜松創生」が、平成28年1月11日(月)、静岡文化芸術大学・講堂にて開催されました。

当日は、高校生・大学生を含めたプロジェクトの参加メンバーが、「若者がつくる未来!」「音楽と観光がつくる未来!」「LRTがつくる未来!」の3部からなる「浜松創生・市民案」を説明し、活発な質疑応答と意見交換が行われました。

(地方創生市民シンポジウムの開催にあたっては、「ふじのくに地域・大学コンソーシアム」の支援を受けています。)



今後の取り組み(平成28年)

●東伊豆で地域課題公開シンポジウムを開催

2月21日(日)東伊豆町役場・第1会議室にて伊豆地域の共通課題に関する公開シンポジウムを開催します。

●「静大フューチャーセンターin松崎町」の開催

2月22日(月)に昨年に引き続き松崎町にて静大フューチャーセンターを開催します。

●「三保松原・地域課題フォーラム」の開催

富士山の世界文化遺産登録2周年となる6月に、三保松原フューチャーセンターとの共催で、三保松原をめぐる諸課題をテーマとしてフォーラムを開催します。

第2期・地域課題解決支援プロジェクトの公募について

平成25年度後半に始まった地域課題解決支援プロジェクトも2年を経過しました。各地で取り組みが行われ、ここで取り上げた事例にみるように、地域の様々な方々との交流を通して、教職員も学生もたくさんのかことを学ぶことができました。

静岡大学では、第1期の課題群への対応を継続しつつ、平成28年度後半に向けて第2期の公募を予定しています。地域課題をきっかけに、それぞれの地域に入り、住民の方と交流し、課題解決と一緒に考えることを通して、学生たちは大きく成長しています。

第2期は、地域課題の解決支援のさい、継続的に学生たちを受け入れていただける自治体、企業、団体の方々を対象に、募集を行います。

機構Webサイト等でお知らせしますので、地域課題を抱え、学生とともに取り組んでいただける方々はふるってご参加ください。

発行

国立大学法人 静岡大学 イノベーション社会連携推進機構

〒422-8529 静岡市駿河区大谷 836

TEL：054-238-4817 FAX：054-238-4295

E-mail：LLC@ipc.shizuoka.ac.jp

URL：http://www.Lc.shizuoka.ac.jp/

平成28年2月発行